



2017-2号

発行所 独立行政法人国立病院機構 西別府病院住 所 7874-0840 大分県別府市大字鶴見4548番地 TEL 0977-24-1221 FAX 0977-26-1163 ホームページアドレス http://www.nbnh.jp/ 印 刷 有限会社中央印刷



4		目	次
	新年度のご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2	平成28年度 合同成人式を開催して 7
	医局紹介 血液内科	3	地域医療連携室だより8
	第15回大分県神経難病地域支援ネットワーク研修会をおこなって・・・	4	職場紹介 9
	第39回九州地区重症心身障害研究会に参加して	5	退職のご挨拶 10
	医療機関受入研修を行って	5	人事異動
	日本医療マネジメント学会第17回大分県支部学術集会		おしらせ 「NHO PRESS」
	ベスト口演賞	6	外来診療担当表
\	看護の日のイベント「まちの保健室」開催について	6	ボランティア募集

理

念 私たちは、常に研鑽し、患者さまのために最良の医療を提供します

基本方針 1.患者中心の医療

2. 患者の権利と尊厳を守る

3. 政策医療の推進 4. 地域医療への貢献

5. 最良・安全医療の提供 6. チーム医療の推進

7. 経営基盤の確立

■患者さまの権利1.良質で安全な医療を受ける権利2.十分な説明を受け、質問する権利3.自分で医療の内容を決定する権利4.プライバシーを保護される権利5.カルテ開示を受ける権利6.セカンドオピニオンを受ける権利7.臨床研究への参加と拒否の権利

2) 西別府 92017-2号

新年度を迎えて



^{院長} 後藤 一也

西別府病院の広報誌をご覧いただき誠に有難うございます。皆様には平素より大変お世話になっており感謝申し上げます。平成29年度も引き続きよろしくお願い申し上げます。

桜のつぼみの中を 46 人の退職、転出する職員をお送りし旧年度が終わり、桜花開花の中を 47 人の新採用、転任の職員を迎えて新年度が始動しました。病院を離れる方々には感謝の念をお伝えし今後のますますのご活躍をお祈りします。迎える方々には、西別府で存分に力を発揮し、充実した毎日となることをお祈りします。

さて、医療や当院を取り巻く環境はますます厳しさを増し、平成28年度の収支状況も悪化しております。その中で平成29年度は、11月の電子カルテの更新、平成30年2月の医療マネジメント学会第18回大分支部学術集会開催、3月の病院機能評価受審(更新)など病院にとっての大きな行事が控えています。さらに、

平成30年度の診療・介護報酬の同時改定、第7次医療計画スタートなど医療・介護施策の大きな節目に向けての準備も怠ることはできません。ただ、病院内外の大きな山谷、節目を医療の質や医療安全を高める好機と捉えて、積極的に取り組んでいく所存です。そのため、平成29年度の病院目標として、以下の二つを掲げました。

- 1. 病院機能を高め、地域・在宅医療に貢献する。 (チーム医療を推進し、医療の質を高め、 地域、在宅医療に貢献する)
- 2. 経営基盤を確立する。 (患者数確保とともに、経費節減、効率的な 業務遂行、会議運営に努める)

病院目標に沿って職員一同力を合わせて、患者さん はもとより職員一人一人にとってもより良い病院とな ることを目指します。皆様におかれましては引き続き ご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

転入のご挨拶



^{事務部長} 河 野 完 治

この度、4月1日付で事務部長拝命致しました河野完治と申します。3月までは西別府病院とほぼ同規模、一般230床、重心130床の福岡病院に勤務しておりました。福岡病院も平成25年度重心病棟、平成26年度一般病棟が完成しましたが、西別府病院も平成25年度に東病棟が完成しており、とても立派で特に病棟廊下は患者さんにも職員にも優れて広く往来しやすく作られているのに感心しております。私は地元出身ですが、国時代、独立行政法人化後通して初めての大分勤務となります。皆様方に1日でも早く名前と顔を覚えて頂きますよう、積極的に現場へと足を運びたいと思っております。何卒よろしくお願い致します。

さて、ご承知のとおり平成28年度は国立病院機構にとって独立行政法人化後、途中経過ではありますが最も厳しい事業年度となる見込みです。ご多分に漏れず西別府病院も、独立行政法人化移行後2度目の赤字決算を見込んでいます。今こそ後藤院長の下、職員が一丸となってこの厳しい経営難を乗り切りましょう。

微力ではありますが、更なる経営改善に取り組んで参りたいと思いますので、皆様のご指導、ご支援の程よろしくお願い致します。



松山恭子

29年4月1日付で、着任しました看護部長の松山です。気候のおかげで今年の春は、満開の桜が出迎えてくれました。

西別府病院は、私の古巣で平成7年4月に異動して以来、22年ぶりに、また勤務することになりました。大分県での勤務は前施設の大分医療センター2年、別府医療センター7年で、久しぶりの地元勤務となります。10年間は長崎県、熊本県、鹿児島県、佐賀県を巡り、施設異動は9か所目。その甲斐あってか、院内には顔見知りの職員が多く、とても心強く感じています。

当院の医療・看護には倫理的実践が大きく求められます。患者様お一人おひとりの個別性に応じた「心ある看護」が提供できるよう、専門性が発揮できる看護師の育成に努めてまいりたいと思います。またこれからの医療は、地域を軸とした地域包括ケアシステムが推進されています。地域の中で当院の役割が果たせるように看護部として、出来ることから取組んでいきます。どうぞみなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

第2017-2号

西別府

医局紹介

血液内科

血液内科 緒 方 優 子

1. 血液内科について

当院の血液内科は2007年に診療を開始し、正式に 血液内科を標榜して3年が経過しました。現在では別 府市内のみならず県北・大分市など広い地域から年間

ンターとも連携 を強化し、別府 医療センターで も血液内科外来 を行っています。 右記は昨年1 年間の当院に訪れた患者様の年 齢分布です。70

右記の当様での高いで内として、おりません。 をはいる おいっと をはいる おいっと は 3/4 恵 と しめています。

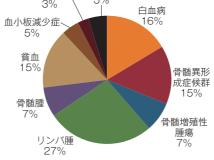


図2 2016 年度新規患者疾患内訳

2. チーム医療

重篤な疾患だけでなく合併症の多い高齢者では状態に応じた診療が必要となります。このため当科では血液内科医師3名のほか、看護師、リハビリ医師・リハビリ



図3 カンファレンスの様子

スタッフによるカンファレンスを毎週1回、さらにこのメンバーに加え歯科医師、薬剤師、検査技師、栄養士、MSW、心理療法士によるカンファレンスを月1回行っています。カンファレンスは患者個別に検討され全身状態や問題点を共有しながら診療計画をたてていきます。

それぞれの職種によりさまざまな視点から問題点を抽出し 相互協力し取り組むことで、より患者の個別性に応じた診療を行うことができます。

例えば認知症のある患者様の場合、積極的にリハビリ

を行い昼夜のメリハリを与えることで認知症の進行を抑えることができる場合もあります。また栄養士などの NST の介入で状態に応じた個別の対応食の提供や輸液メニューを提言していただくことで栄養状態を維持でき病気と戦う身体を保つことができます。歯科医師が介入することは食事摂取ができる口腔衛生を保ち、感染予防にもつながります。MSW が入院当初から介入することは退院してご自宅に戻るときにも適切な介護サービスへつなげることができ、外来でも家族の相談窓口となることができます。

このようなカンファレンスを継続して行うことは診療の上で 非常に有意義であるばかりでなく医療者のレベルアップにも つながり、血液内科診療の質が年々向上してきています。

血液内科を診療している中2病棟からは学会認定臨床

輸血看護師も2人誕生 し、病院全体の輸血 安全管理も担ってくれ るようになりました。

また当院には全国でもまだ数の少ない骨髄検査認定技師が勤務しており、精度の高い診断や経過観察を行うことができます。

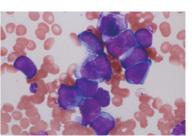


図4 当院の白血病の一例 (撮影:松本恵美子骨髄検査認定技師)

3. がんリハビリテーション

これらのチーム医療の力を生かして当院では血液悪性腫瘍患者に対するがんリハビリテーションに力をいれています。血液疾患では化学療法等により全身状態が変化しやすく闘病できる身体を維持することはとても重要です。当院ではリハスタッフと毎週カンファレンスを行っているため治療のスケジュールや全身状態を把握することが可能で体力が低下する前の入院当初からリハビリを開始しています。状態に合わせながら身体を動かすことで体力維持向上だけでなく気分転換にもなり、闘病意欲を維持できます。また病状が悪化して思うようなリハビリができないときや寝たきりとなったときでもリハビリスタッフは真摯に患者様との関わりを続け、リラクゼーションのマッサージをしたり話を傾聴したりと心身ともに緩和を図ってくれており、血液内科診療を支える大きな力となっています。

4. 患者様の笑顔が増えるように

当院で行っている血液内科の診療は他施設のように 移植などの大きな治療は行ってはいません。しかし高 齢者の診療におけるチーム力はどこにも負けていない と私は思っています。これからも患者様に一番適した 治療を行えるよう、スタッフ一丸となって努力してい きたいと考えています。患者さんの笑顔が私たちの喜 びであり、少しでもその笑顔が増えるよう西別府病院 の血液内科にしかできない医療をこれからも提供して いきます。

第15回大分県神経難病地域支援ネットワーク研修会をおこなって

神経内科部長

後 藤 勝 政

まだ寒さの残る平成29年2月11日の土曜日午後に、別府市の別府国際コンベンションセンター ビーコンプラザ中会議室で、第15回大分県神経難病地域支援ネットワーク研修会が開催されました。毎年、1月末か、2月の土曜日の午後に開催しており、数年前からはビーコンプラザを会場として開催するようになっています。

当日は、となりで他の講演会が開かれており、人の多さにまずは圧倒されながらも、当研修会も多くの関係者の出席を数え、無事に終えることができました。

昨年は「神経難病患者のコミュニケーション手段と支援」をテーマに行いました。今回の研修会は、昨年4月におきた熊本・大分地震をふまえて、「神経難病患者の在宅における災害対策を考える一熊本・大分地震を体験して一」というテーマで開催しました。

特別講演に熊本再春荘病院副院長の上山秀嗣先生をお招きして、「神経難病患者における災害に備えた対応について」というタイトルで講演していただきました。神経難病の説明から始まり、東日本大震災に支援に行った経験、さきの熊本地震での被害の様子、さらには、災害に備えるための具体的な手段などを丁寧に教えていただき、大変参考になる講演でした。

15分の休憩をはさみ、第2部として、体験発表パネルディスカッションが行われました。

・訪問看護ステーションひまわりの屋田さんから、



「人工呼吸器を装着した利用者への災害時の対応と 連携、熊本・大分地震を振り返る」、

- ・西別府病院歯科衛生士の原さんから、「災害時の口 腔支援チームの活動に参加して」、
- ・大分県東部保健所保健師の宇都宮さんから、「在宅 難病患者の災害時の支援について、保健所の立場か ら」、
- ・最後は、在宅患者の金尾さんから、「津波避難訓練を体験して」、

と題して、4名の発表がありました。いずれも有 意義な発表でした。

災害のときにまずはどう対応するのか?おのおのが自覚をしておくこと、また、大きな災害のときは、自力で3日間は過ごせるように準備する必要がある、などの活発なディスカッションも行われました。

夜は、特別講演の講師を囲んで、北浜の居酒屋で 和気あいあいと懇談会も行われました。





第39回九州地区重症心身障害研究会に参加して

東3病棟 後藤知子

平成29年3月4日に鹿児島県で開催された、第39回九州地 区重症心身障害研究会に参加しました。

今回、胃瘻造設患者の皮膚トラブル改善に向けての取り組みについて研究発表を行いました。対象の患者は胃瘻周囲にびらん形成し処置時に啼泣がみられることも多く、皮膚トラブルが改善し患者の苦痛が少しでもなくなればという思いからこの研

究に取り組みました。研究により皮膚トラブルは改善し啼泣も減少しました。

また他の九州内の病院や施設の研究発表では、自傷行為の多い患者に対してアロマを利用したリラクゼーションを図る援助や、胃瘻造設している患者に食べる楽しみをもってもらうために経口摂取に向けての取り組みなど、様々な研究を行っており、大変勉強になりました。

発表を聞き改めて、ベッド上での生活が多い患者が毎日の生活をもっと楽しく 過ごせるにはどうすれば良いのか、今現在ある苦痛が少しでもなくなるには何が できるのか、常に考えながら援助を行うことが大切だと感じました。

今回の研究会で学んだことを、日々の看護に生かしていきたいと思います。





医療機関受入研修を行って

教育担当看護師長 小林典子

看護部では、平成25年度より人材育成を目的として、地域の訪問看護ステーションや病院に勤務する看護師を対象に研修を実施しています。また、研修を通して西別府病院のことを知って頂く機会とし、地域の医療機関の方々とのつながりを深めていくことをねらいとしています。研修内容は、「口腔ケア」「感染防止対策」「ポジショニング」「食事介助」「災害時の対応」「フィジカルアセスメント」で、在宅で実践できる方法として実施しました。講師は医師や歯科衛生士、言語聴覚士、認定看護師などそれぞれの職種に依頼しています。

年々、参加者も増えており、今年度は計7回の開催で延べ66名の方の参加があり(院内を含めると141名参加)、看護師だけでなく、ヘルパーやケアマ

ネージャー、理学療法士の方々の参加 もみられました。院外の方が参加しや すいように、昨年度からは開始時間を 18時にしました。昨年度のアンケート 結果を踏まえ、今年度は講義だけでな く、すぐに実践に役立つように演習を 取り入れています。研修後、「理解で きた」「実践に役立つ」という意見を 多く頂いています。訪問看護の合間に ユニフォームで参加して頂く方もおられ、研修への関心と意欲の高さが感じられ、企画する私たちも刺激を 受けています。

来年度も引き続き開催し、西別府病院の地名度を 上げると同時に、地域で働く看護師の方との交流を深 めていきたいと思っています。







日本医療マネジメント学会 第17回大分県支部学術集会 ベストロ演賞

療育指導室「ひだまり」 担当保育士 鳥 悦 子

2017年2月18日臼杵市にて、日本医療マネジメン ト学会第17回大分県支部学術集会が開催されました。 当院の日中一時支援事業「ひだまり」スタッフの急 変時の対応に対する取り組みが、この会にて評価され ました。

医療技術の進歩により高度な医療的ケアを要する在 宅の重症心身障害児・者が増加しています。当院の日 中一時支援事業で一時的な気管カニューレ閉塞事例が 発生した時、様々な問題点があがり、急変時の対応に ついての対策が急務となりました。保育士、業務技術 員(以下、コメディカルスタッフという)の勉強会等 を行い、安全なサービス提供体制を検討しました。問 題点としては、①コメディカルスタッフの要医療者へ の観察が不十分であった。②入浴時、浴室と脱衣室に 待機している複数の要医療者に対して看護師1名体制 のため、観察不足となった。③急変時にコメディカル スタッフの動きが明確でなかった等があがりました。 対応を検討した結果、医師や看護師によるコメディカ ルスタッフの勉強会を行いました。また入浴時の看護 師の体制を外来看護師長と共に検討し、入浴後の気 管切開部位の処置時には2名体制となりました。急



第2017-2号

ひだまりスタッフ

変時のフロー チャートを作 成し、入浴時

の急変を想定したシミュレーションを実施しました。 勉強会やシミュレーション実施後の話し合いでは、要 医療者へのリスクが高いという再認識をもち、安全を 意識し、定着を図っていこうとする意見がまとまりま した。以上の内容を、口演発表させていただきました。 現在、毎週月曜日のフローチャートの読み合わせや

年2回のシミュレーション実施を継続しています。

障がいのある方が、当たり前のように利用できて、 当たり前のように帰ることは何気ないことですが、ス タッフの日々の努力に目を向けていただいたことに感 謝をしています。利用者および家族の皆様方より、御 意見、激励など、多くの声をいただき、利用しやすい、 温かい『ひだまり』であるように努めたいと思います ので、今後とも、よろしくお願い申し上げます。

本発表にあたり、「ひだまり」担当医師の内山先生 はじめ関係職員各位様に心より感謝するとともに、貴 重な機会を与えていただきありがとうございました。



医師による勉強会



急変時のシミュレーション



看護師による勉強会



ン別府」催事場にて同イベントを開催いたします。「デー タを知ることは健康の第一歩」をテーマとして、健康相 談、栄養相談、身長·体重測定、血圧測定、体脂肪測定、 肺活量測定、血管年齢測定、パネル展示を行います。ス タッフ一同、沢山の方々のご来場をお待ちしております。



平成28年度 合同成人式を開催して





平成29年1月18日(水)今年度も療育ホールにて 合同成人式が開催されました。厳かな雰囲気の中、式 は盛大にとり行われました。

今年度は東4病棟の利用者様各2名と、日中一時支 援(ひだまり)の利用者様1名の計3名方が新成人を 晴れて迎えられました。当日1名は体調不良の為、出 席できませんでしたが、終了後ベットサイドにて院長 よりお祝いを渡していただきました。

会場は、多くの来賓当院幹部職員が出席し入場の曲 に合わせて新成人者と保護者が一緒に入場されました。

新成人者紹介は受持ち看護師、担当保育士より行 いました。また、これまでの成長していく様子を1枚 1枚映し出され、会場はやさしい、温かい雰囲気に包 まれました。

スクリーンを見つめながらご家族が涙をぬぐう姿 も見られました。

新成人者代表挨拶では、「頑張ります」と抱負を述 べられ、その述べられた表情はとても輝き、未来に向 かって自信溢れる笑顔に出席者、来賓者より、大きな 拍手が聞かれました。別府市長代行(別府市教育委員

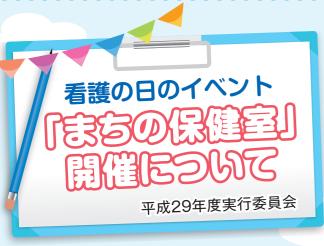
会教育参事)、大分県立別府支援学校石垣原校副校長、 重症心身症児(者)親の会「わかば会」会長、日本筋 ジストロフィー協会大分県支部支部長にもご臨席いた だきました。祝辞を頂戴し、成人者やご家族は神妙な 面持ちで聴かれていました。

今年度はAKB48「365日の紙飛行機」をお祝いの 歌として選曲しました。紙飛行機のように夢に向かっ て飛んで行って欲しいという気持ちを込めて、成人者 に歌を届けました。

これからはひとりの大人として、自覚と責任を持 ち周りの人に感謝し健康に気をつけて楽しい人生を歩 んでいただきたいと願っています。

終了後、ご家族の方からも「こんなに盛大に開催 していただき嬉しく思います。ありがとうございまし た。」とのお礼の言葉が聞かれました。

ご多忙中にもかかわらず御臨席いただきました来 賓の皆様、職員の皆様にはこの場を借りて感謝申し上 げます。そして、成人を迎えられた3人、ご家族の皆 様にあらためて心からお慶び申し上げます。この度は 成人、おめでとうございました。



りの参加者があり、地域の皆 様に喜ばれ終了いたしました。

今年度も5月17日(水)10時~15時に「ゆめタウ





相談できます

まちの保健室

5月17日(水)10時~15時 ゆめタウン別府











西 別 府 第2017-2号

地域医療連携室だより

地域医療連携係長 佐藤 恭子

季節が春になり、木々の緑がまぶしいこの頃です。 西別府病院の地域医療連携室は新体制となり1年が経 過しました。新体制となり、「退院前・退院後訪問指導」 への取り組みに力をいれています。

当院の特徴の一つに、神経筋難病疾患患者さんへの 医療・看護の提供があります。人工呼吸器を装着し、 在宅で生活されている患者さんもいらっしゃいます。 当院では、そのような患者さんに対して、積極的に「退 院前・退院後訪問指導|を行っています。まず、医療、 介護の関連事業所、行政等と、どのようにしたら人工 呼吸器を装着したまま、患者・家族が安全で安心して 在宅で生活できるかを、カンファレンスを行います。 カンファレンスは1回にとどまりません。様々な問題 を検討し、地域事業所に周知できるまで行います。ま た、在宅の状況を把握するために、理学療法士等と共

に、家屋調査に伺い、退院する上で改善すべき点につ いて退院前訪問指導を行っています。退院時には、医 師、看護師、MSW が同行し、実際に人工呼吸器作動 確認を行い、在宅での様子を確認することで、患者さ んが安全・安心に在宅生活をスタートできる体制つく りを行っています。患者宅では、訪問看護ステーショ ンや地域の関連事業所等が待機し、地域包括ケアシス テムが目指す、医療から在宅への連携がとれるよう努

当院は、レスパイト入院の受け入れも行っています。 患者さんだけでなく、ご家族の介護支援にも力をいれ ております。地域とのタイムリーな連携がとれるよう 今後も努めていきます。



患者さんが在宅で暮らすために、医療、地域、行政等す べてが力を合わせます。



退院です。主治医・看護師と一緒に自宅に帰ります。



0977-24-1221 (内線 768 又は 237)

CT・MRI 検査引き受けます!!

西別府病院では、当院の保有している医療機器(CT・MRI)が利用でき るシステムがあります。本システムでは、患者さんの当院での会計は発生 せず、当院の報告書をもとに、各医療機関様において、会計、レセプト請 求していただけます。当院からは、各医療機関様と契約をもとに、撮影料 の請求を行います。契約につきましては、事前契約をお願いしています。 0977-24-1221 (内線 768 又は 237) へご連絡下さい。

別府 第2017-2号

- ・医療機器管理室 (臨床工学)



西別府病院歯科は、入院患者の一般歯科治療を主た る業務として行っています。

スタッフは、歯科医師3名(常勤1名、非常勤歯科 口腔外科医2名)、歯科衛生士3名(常勤1名、非常 勤2名)、歯科技工士2名(非常勤)、歯科アシスタン ト&クラーク各1名(非常勤)の10名です。

診療は、う蝕、歯周病、義歯の治療や、専門医によ る抜歯等の口腔内小手術、口腔粘膜疾患等の処置の他、 摂食機能訓練や口腔ケアにも力を入れています。また、 NST(栄養サポートチーム)ラウンド、摂食嚥下チー ムラウンド、SAS (睡眠時無呼吸症候群) カンファレ ンスにも参加しています。

また一部外来診療として、毎週木曜日は、当院睡眠 時無呼吸外来紹介患者の口腔装具を、それから水曜日 午後は、スポーツ歯科外来のスポーツ・マウスガード の作製を行っています。さらにスポーツ歯科は、年間 数回休日に、スポーツチームのマウスガードの型取り や普及活動などフィールド・ワークも行っています。

歯科は「痛い、怖い」イメージがありますが、でき るだけ不安なく適切な歯科医療を提供できるよう、受 診される皆様そしてご家族様の立場に立った健口(け んこう)サポートを行っていきたいと考えています。

(歯科部長 保科 早苗)





臨床工学技士は医療安全管理室の所属で医療安全管 理責任者(副院長)の下、当院の特徴である常時100 台ほど稼働している人工呼吸器の安全管理、保守点検 や輸液、シリンジポンプなどの ME 機器の点検のほか、 新規物品採用時などの人工呼吸器や医療機器の教育を 行っています。また、患者さんの状態が悪くなった際 の人工呼吸器導入やアフェレーシスなど各種の治療機 器の操作、手術機器のセットアップや安全管理も行っ ており、医師、メディカルスタッフへ機械的な面から のサポートを行っている職種です。

最近特に力を入れている分野は人工呼吸器からの データを通して解析を行い、その条件が患者さんに とって最適なものかをデータで評価する事とリハビリ テーション科と協働しての呼吸リハビリテーションで す。当院では人工呼吸器を長期間使用する患者さんが 多いので、呼吸器装着中にトラブルなく、いかに快適 に過ごせるかを機械からのデータで読み取りながら設 定、調整、リハビリテーションに生かしています。管 理する医療機器は多く、日々進化しています。3人と 少数ではありますが、皆様の力になれるようさらに頑 張ります。

(主任臨床工学技士 阿部 聖司)